

## ワークショップ実施報告

【名称】WS 「これからの地域福祉についてみんなで考えよう」  
 【日時】①2025年8月22日（金）明石市民会館 第1・2会議室  
 ②2025年8月24日（日）あかし保健所 2階会議室  
 【参加】①22人 ②28人 計50人



### 1 市及び市社会福祉協議会からの情報提供

- ・明石市地域福祉計画について
- ・明石市の現状（アンケート、ヒアリング調査より）
- ・第5次地域福祉計画、第4次地域福祉活動計画の策定について

### 2 ワークショップの声と対応する計画の項目

ワークショップでいただいた市民の声は、第5次地域福祉計画の各項目の作成にあたって参考としています。それぞれのご意見に対する計画の項目は以下のとおりです。

ワークショップの声	対応する計画の項目
<u>地域のつながりの希薄化と関係性の課題</u> ○人々の関係性の変化 マンションでは隣人との関りが少なく、近隣に頼らず自己解決する傾向にある。コロナ禍を経て、つながりが希薄になったと感じている。	(P39) 基本目標2 施策4
○自治会・団体活動の弱体化 若い世代が自治会に参加しないことや自治会の後継者不足が課題である。	(P39) 基本目標2 施策4
○世代間交流の不足 高齢者と子ども・若者が一緒に集まれる場所が不足している。	(P37) 基本目標2 施策2
<u>活動を担う人材・担い手の課題</u> ○ボランティア・活動者の不足 ボランティアの実人数が不足しており、後継者が見つからない。同じ人が複数の活動を担っているため、活動が固定化、高齢化している。	(P36) 基本目標2 施策1

<p>○参加への心理的ハードル 「ボランティア」という言葉は、しんどい・大変というイメージにつながり、参加を難しくしている。若い世代は地域活動に参加するメリットを感じにくい。</p> <p>○関係機関の人材不足 ヘルパーや介護事業所の人材不足、民生委員・児童委員の後任が不足している。</p>	(P 38) 基本目標2 施策3  (P 36) 基本目標2 施策1
<p><u>情報発信・広報の課題</u></p> <p>○情報伝達手段のギャップ 若い世代はSNS等を活用している一方で、高齢者には情報が届きにくい等、世代間で情報交換方法にギャップが生じている。</p> <p>○計画の認知度不足 地域福祉計画の存在が知られていない。内容も受け入れやすい言葉で伝えるべきである。</p>	(P 26) 基本目標1 施策1  (P 26) 基本目標1 施策1



## 居場所・支援体制の課題

### ○集いの場の不足

近隣に集える場所が少なく、活動できる場所が不足している。子どもや高齢者が一緒に利用できる場所が求められている。

(P37)  
基本目標2  
施策2

### ○生活支援の不足

買い物や通院等の生活上の困りごとがある。

(P43)  
基本目標3  
施策2

### ○相談窓口の不明瞭さ

相談窓口がわからない。制度の狭間にある住民に支援が届きにくい。

(P26)  
基本目標1  
施策1

(P43.44)  
基本目標3  
施策2・3

